

## ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

### 慣用句

『口火(くちび)をきる』

意味:一番初めに物事の始めるきっかけをつくるという意味。

ひとこと:“口火”とは、爆薬などをばく発させるためにつける火のこと。

使い方:ぼくが反対の口火をきったら、次々と反対の意見が出た。

『口を割(わ)る』

意味:かくしていた秘密をすべて話してしまうこと。

ひとこと:対義語として「口をぬぐう」「口に戸を立てる」がある。

使い方:あの事件の犯人が口を割ったらしい。

### ことわざ

『くさっても鯛(たい)』

意味:本当に価値のあるものは、例えだめになってもその価値を失わないの意味。

使い方:さすがにこのメーカーのカメラは腐っても鯛だ、古くなってもきれいに写せる。

『口は災(わざわい)いのもと』

意味:おしゃべりは慎まないといけないという意味。

ひとこと:不用意にしゃべると、後で思わぬ災難を呼ぶことがあるという戒めのことわざ。

使い方:口は災いのもとだから、なんべもべらべら喋るのは良くないよ。